

東京証券取引所 市場第一部

証券コード6926

岡谷電機産業株式会社

2018年度（2019年3月期）

決算説明会

2019年5月24日（金）

目次

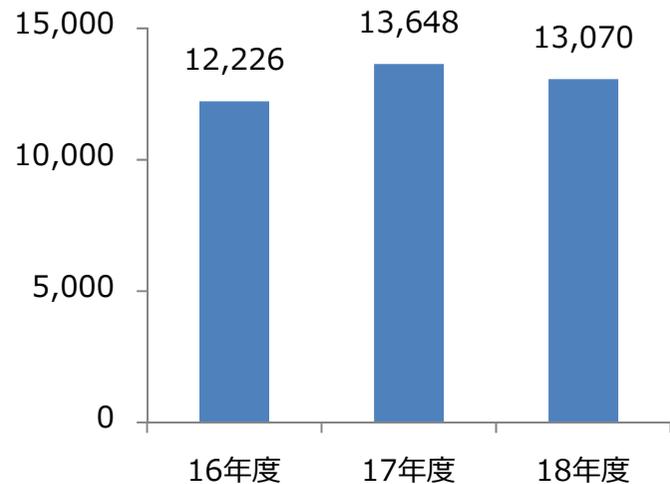
第1部	2018年度	決算概要
第2部	2019年度	計画値
第3部	経営方針	

第1部 2018年度 決算概要

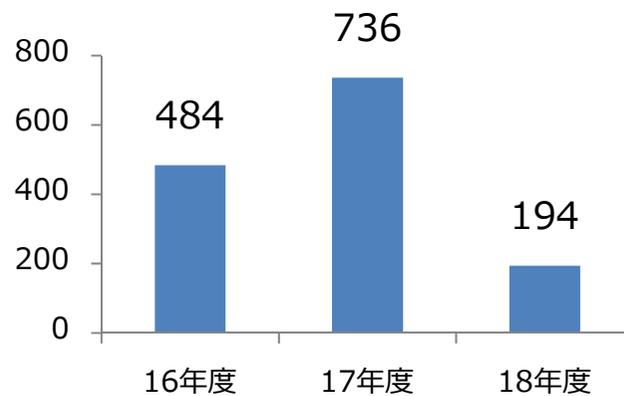
(1) 決算ハイライト

売上高	130億70百万円	(前年比96%)
営業利益	1億94百万円	(前年比26%)
純利益※	△6億70百万円	(-)

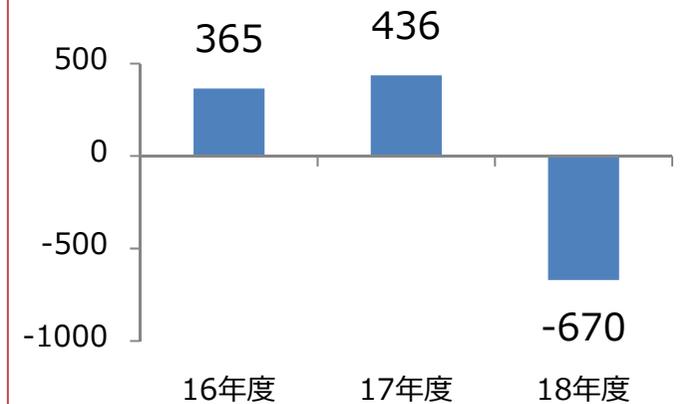
売上高
(百万円)



営業利益
(百万円)



純利益※
(百万円)



※親会社株主に帰属する純利益

(2) 業績予想との差異分析

売上高 130億70百万円 +70百万円

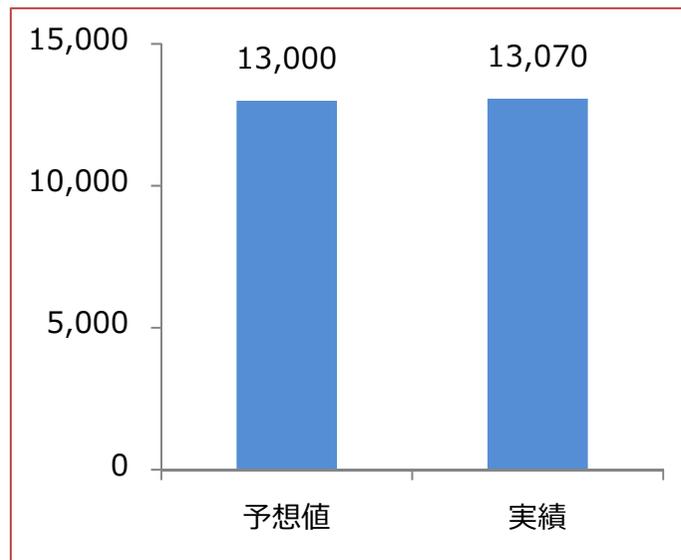
営業利益 1億94百万円 △26百万円

純利益※ △6億70百万円 △770百万円

- ←
- ・米国におけるコンデンサ取引に関する訴訟対応 (3.2億円)
 - ・繰延税金資産の取り崩し (4.5億円)

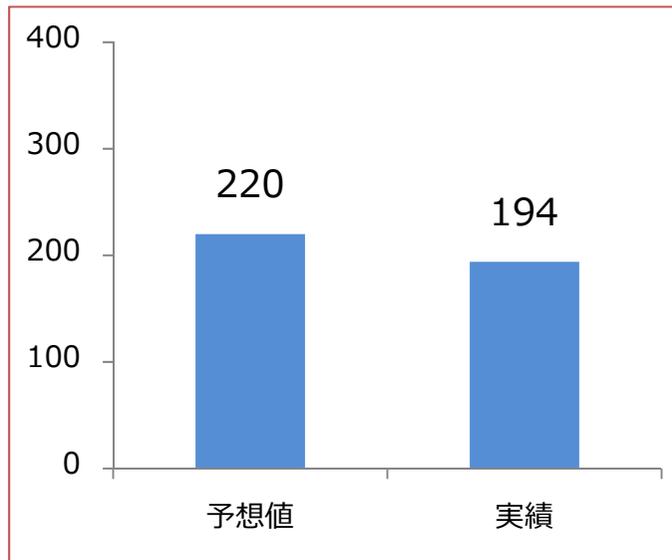
売上高

(百万円)



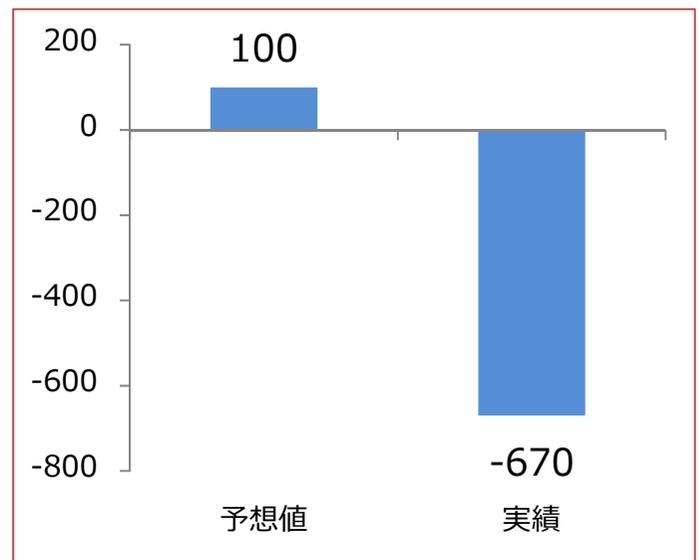
営業利益

(百万円)



純利益

(百万円)



※親会社株主に帰属する純利益

(3) 損益計算書

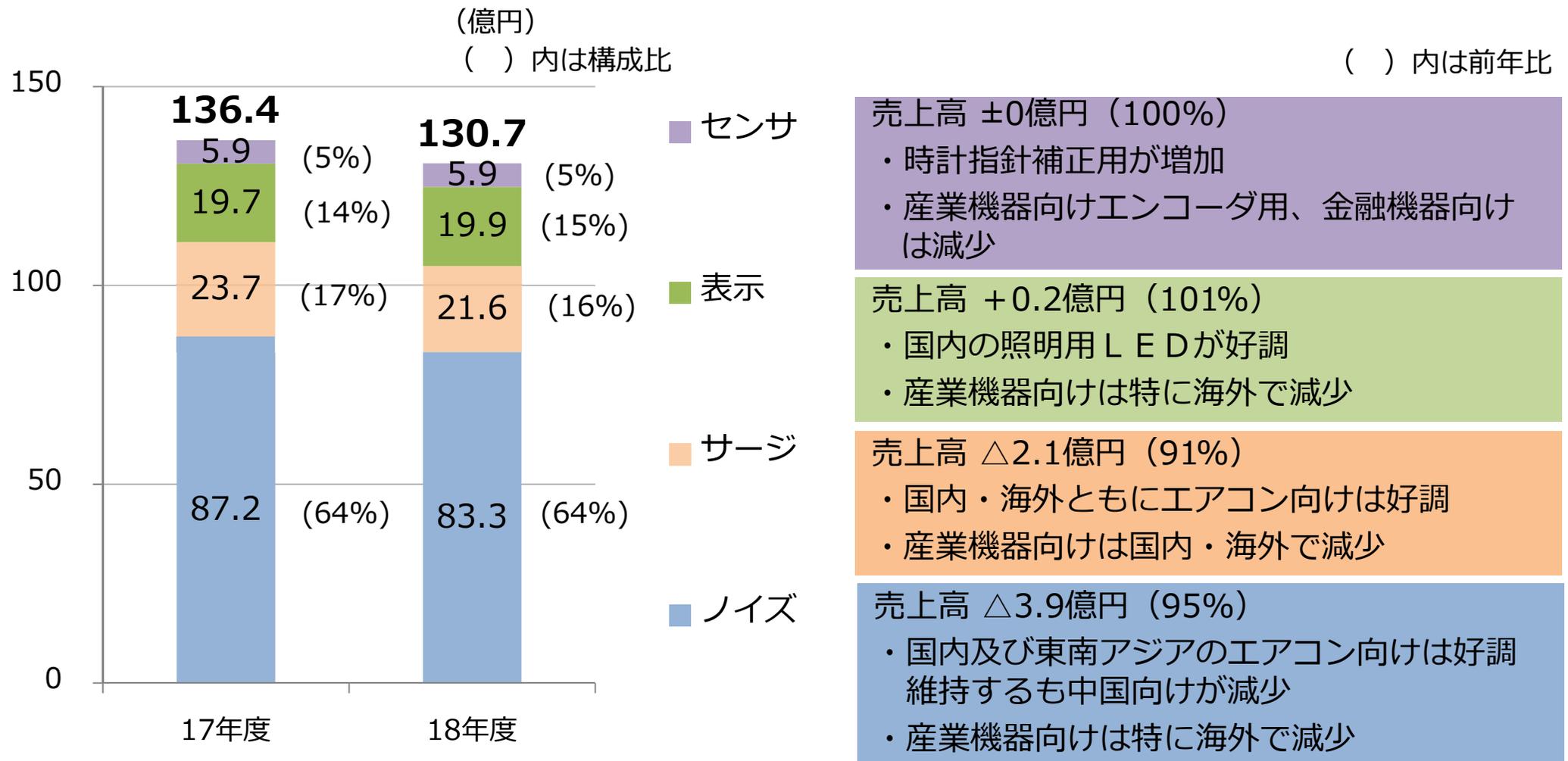
為替：1 USD = 111.21円 → 110.67円

(百万円)

	17年度	18年度	前年比	
売上高	13,648	13,070	△578	96%
ノイズ	8,721	8,326	△395	95%
サージ	2,364	2,156	△208	91%
表示	1,967	1,994	27	101%
センサ	594	593	△1	100%
国内	6,812	6,732	△80	99%
海外	6,836	6,338	△498	93%
アジア (万USD)	5,300	4,819	△481	91%
欧米 (万USD)	846	907	61	107%
海外 (万USD)	6,147	5,727	△420	93%
営業利益 (利益率)	736 (5.4%)	194 (1.5%)	△542	26%
経常利益	571	171	△400	30%
純利益	436	△670	△1,036	-

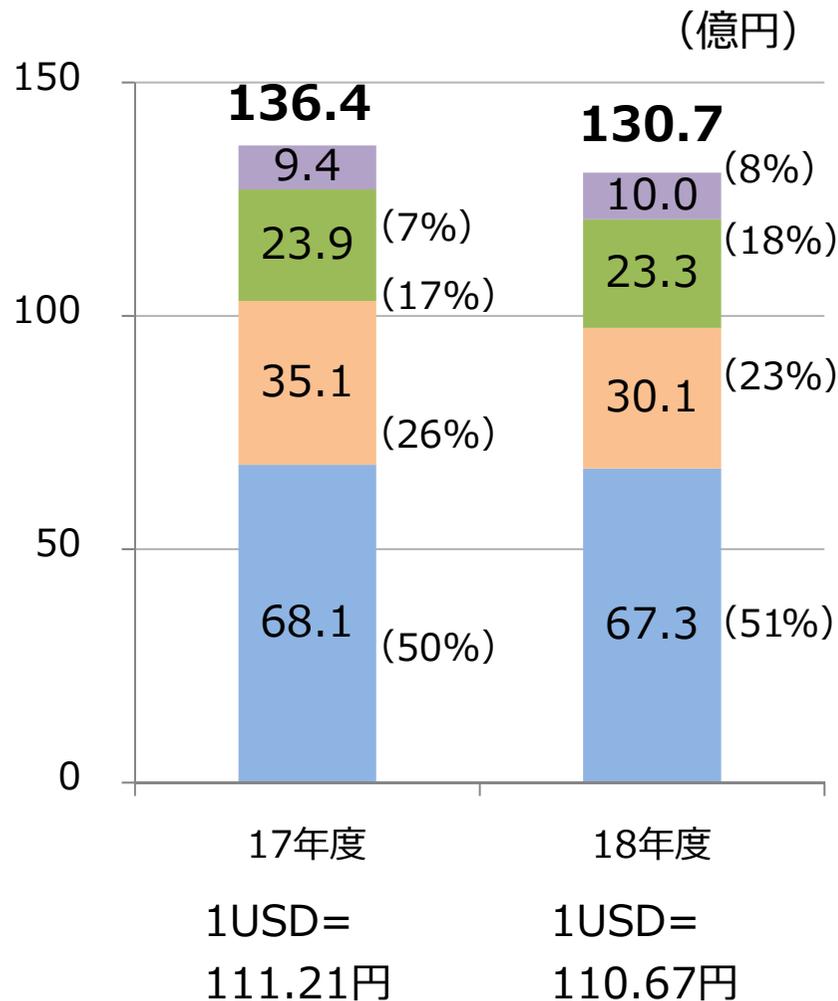
(4) 売上高 (セグメント別)

・サージの構成比率が1%減少、表示は1%増加

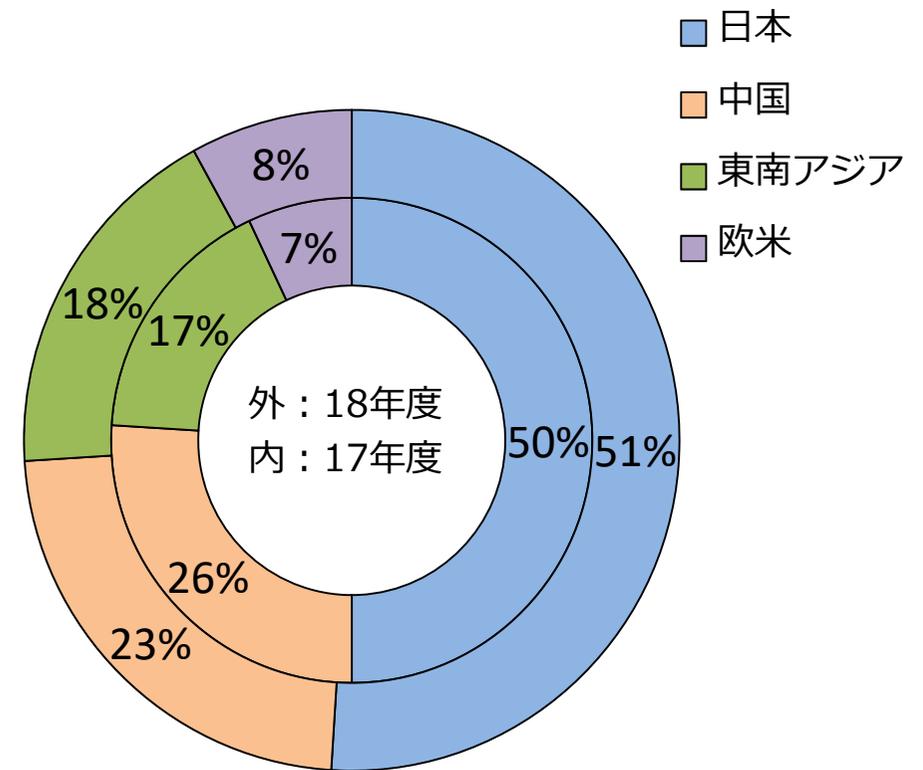


(5) 売上高 (地域別)

- ・ 東南アジア、欧米向けは概ね前年度並を維持
- ・ 特に中国向けが減少。国内向けは伸びず

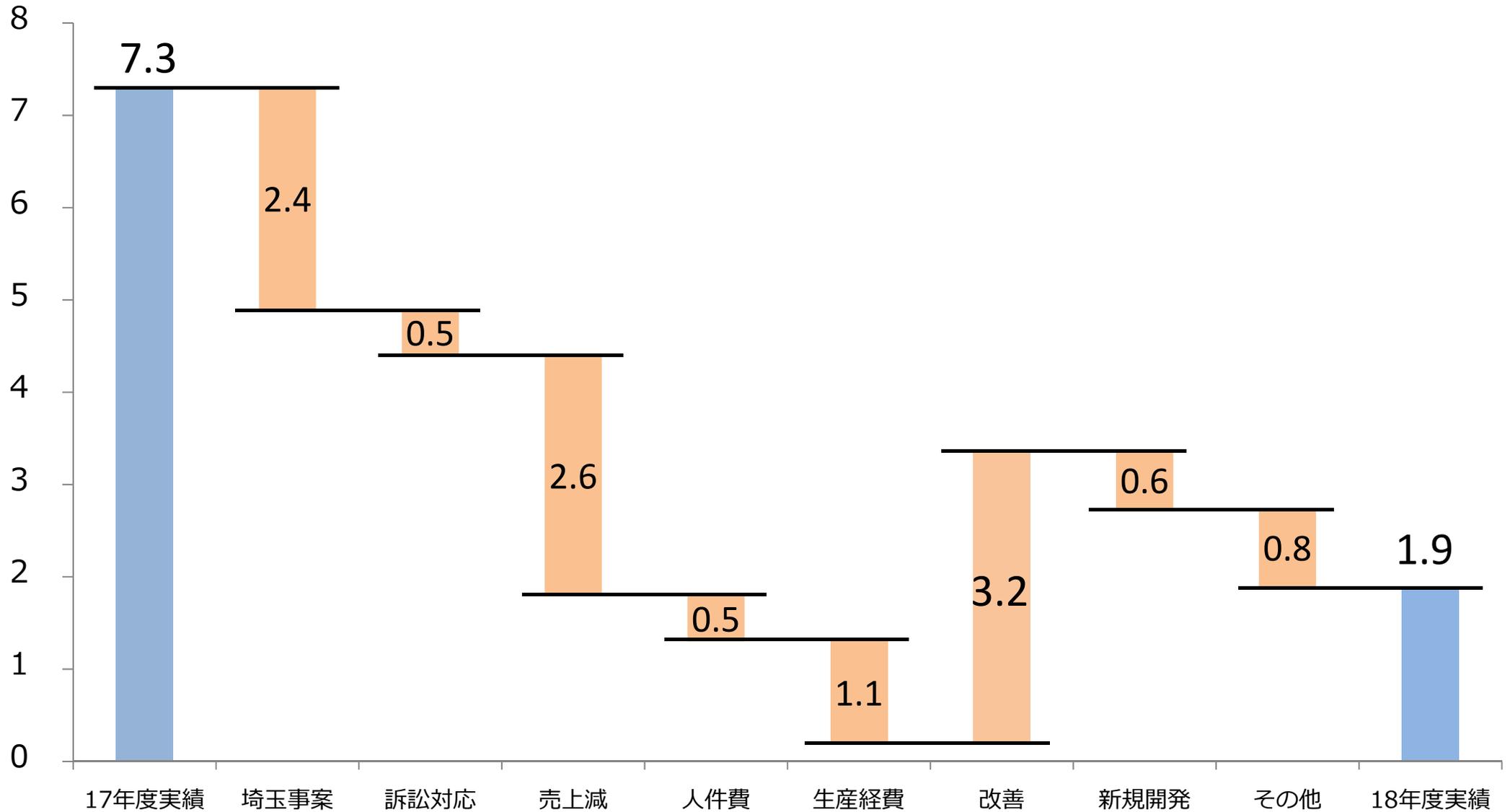


(参考) 17年度レートでの構成比率比較



(6) 営業利益の増減要因

(億円)



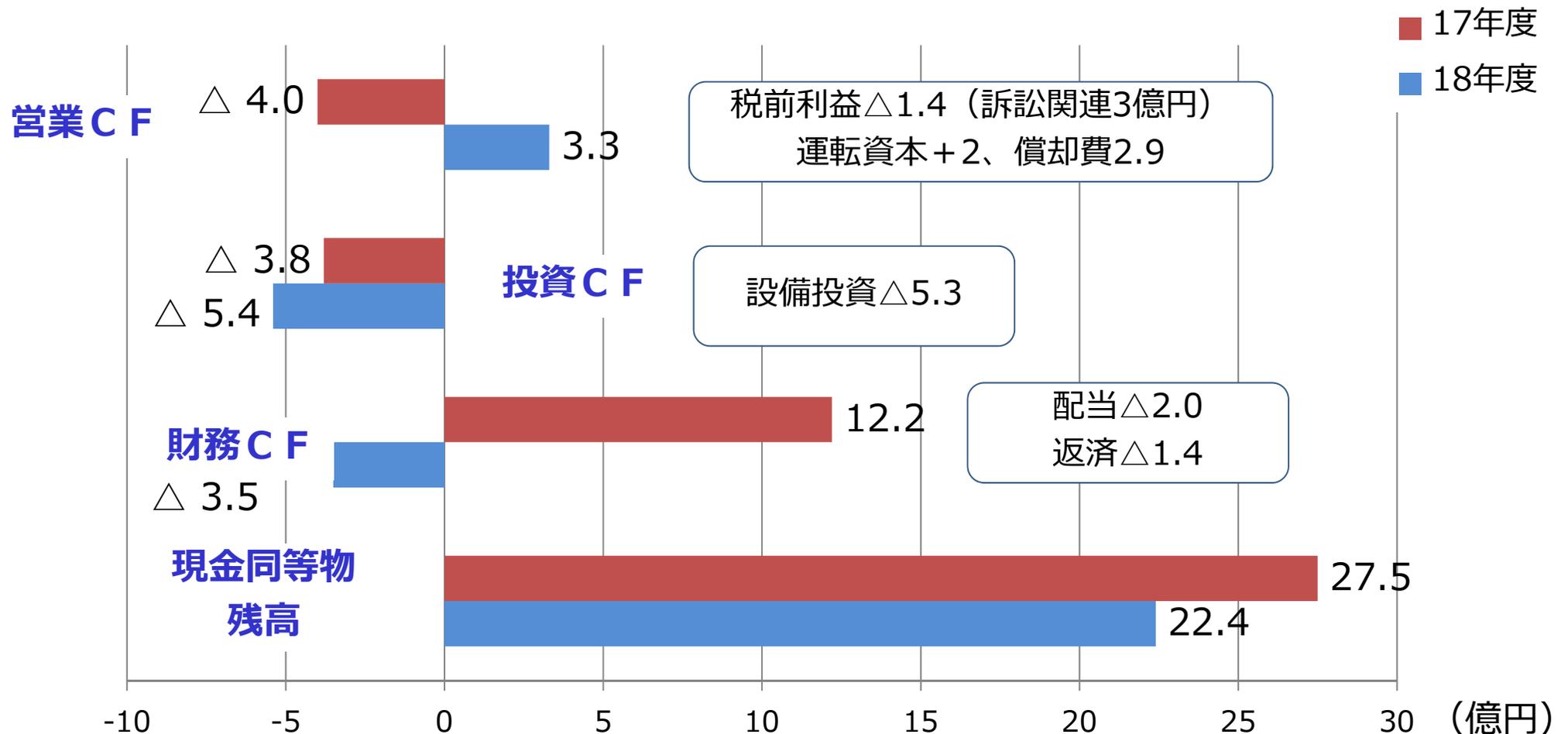
(7) 貸借対照表

・ 総資産158億円→144億円 (有価証券評価損△5.9億円、純利益△6.7億円ほか)

			17年度	18年度	前年比	(百万円)
資 産 部	流 動 資 産	現 預 金	3,758	3,240	△518	現金△5億円
		売 上 債 権	4,555	4,188	△367	売上減による
		棚 卸 資 産	1,815	1,807	△8	
		そ の 他	414	325	△89	
	流 動 資 産 合 計		10,544	9,561	△983	
	固 定 資 産	有 形 / 無 形	2,783	3,043	260	設備投資5.3億円 償却による減△2.9億円
		投 資	2,516	1,874	△642	保有株式時価△5.9億円
	固 定 資 産 合 計		5,300	4,918	△381	
負 債 部	有 利 子 負 債	3,046	2,905	△140		
	そ の 他 負 債	3,463	3,375	△87		
純 資 産 の 部		9,335	8,198	△1,137	当期純損失△6.7億円	
総 資 産		15,845	14,479	△1,365		
自 己 資 本 比 率		58.9%	56.6%	△2.3%		

(8) キャッシュ・フロー

- ・現預金減 5 億円 (キャッシュイン) 運転資本 2 億円、償却費 3 億円
(キャッシュアウト) 設備投資 5 億円、訴訟関連 3 億円、配当 2 億円等



(9) カルテルの状況

- ・ 米国における訴訟対応を除き、ほぼ収束

【競争法規制当局】

米国・台湾

調査終了

複数の国

調査継続中

【集団民事訴訟】

カナダ

和解済（裁判所承認待ち）

米国

和解済

→ 集団訴訟から離脱した原告との交渉が想定以上に長期化。引き続き対応が必要となったため、引当金3.2億円を計上。

(10) スリランカ工場の状況

- ・ 当社への直接の被害はなし。事件前の生産体制に戻りつつあり

4/21（日）コロンボを始めとする複数の都市で爆弾テロ事件が発生。日本人1名を含む多数の死傷者が出た。現在、数か所で事件に対する報復行為が相次いでいる。

当社工場への影響

- ・ 社員全員の安否を確認。負傷者等なし
- ・ 当社工場への影響はなし
- ・ 5/16（木）まで断続的に夜間外出禁止令発令

操業状況

- ・ 事件直後に一直（8時間）体制、現在は二直（16時間）体制
- ・ 生産数量は事件前の90%程度。中国工場にて代替生産を実施中
- ・ 物流については、貨物検査の厳格化により多少の影響あり

第2部 2019年度 計画値

(1) 業績予想値

・売上高は18年度比1%成長を計画

想定為替レート：110円

年間

	18年度実績	19年度計画	
売上高	13,070百万円	13,200百万円	(101%)
営業利益	194百万円	380百万円	(196%)
純利益 ※	△670百万円	300百万円	(-)
	(1USD=110.67円)	(1USD=110円)	

上期

	18年度実績	19年度計画	
売上高	6,840百万円	6,300百万円	(92%)
営業利益	75百万円	80百万円	(105%)
純利益 ※	33百万円	70百万円	(206%)

※親会社株主に帰属する純利益

(2) 売上高・利益計画

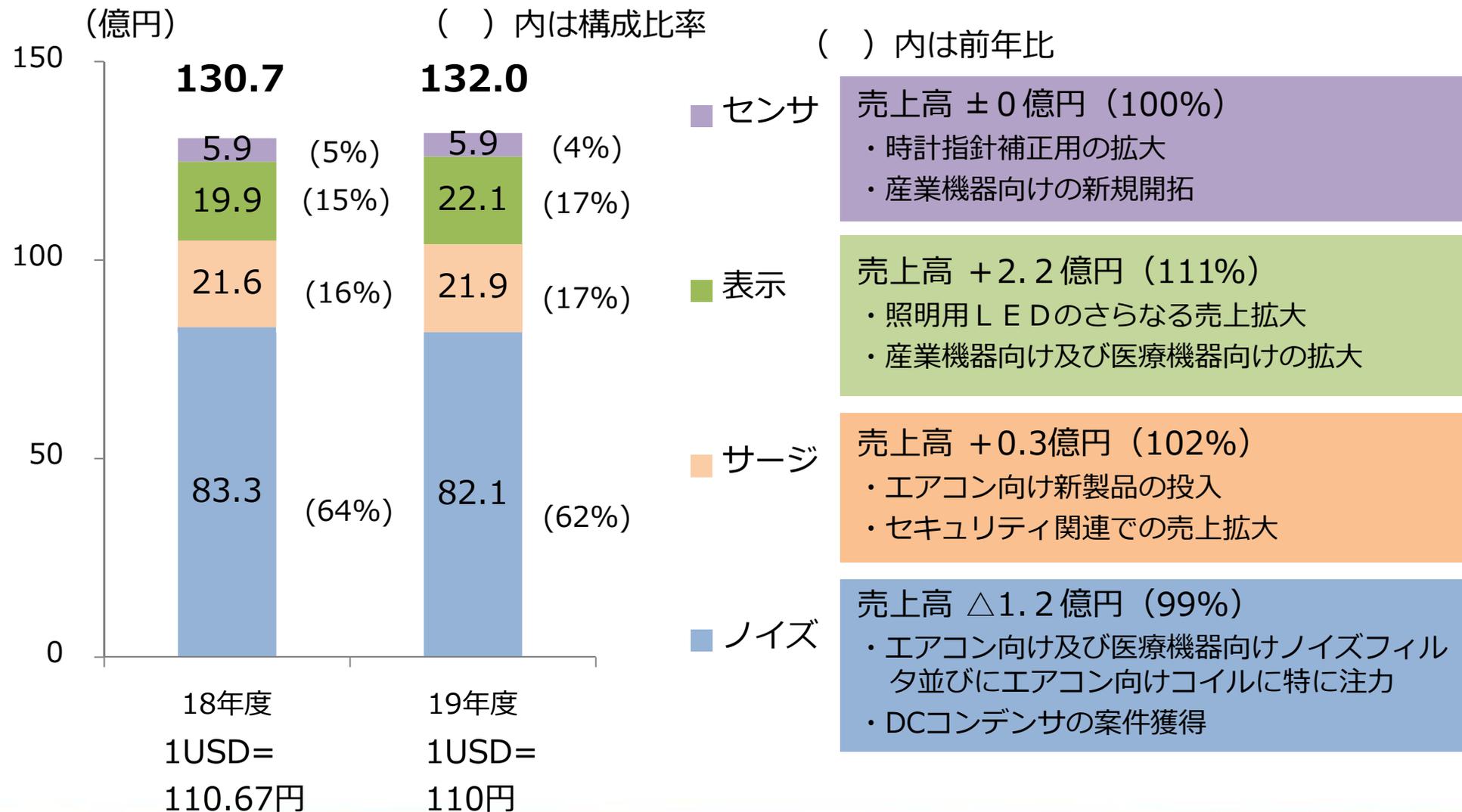
為替：1 USD = 110.67円 → **110円**

(百万円)

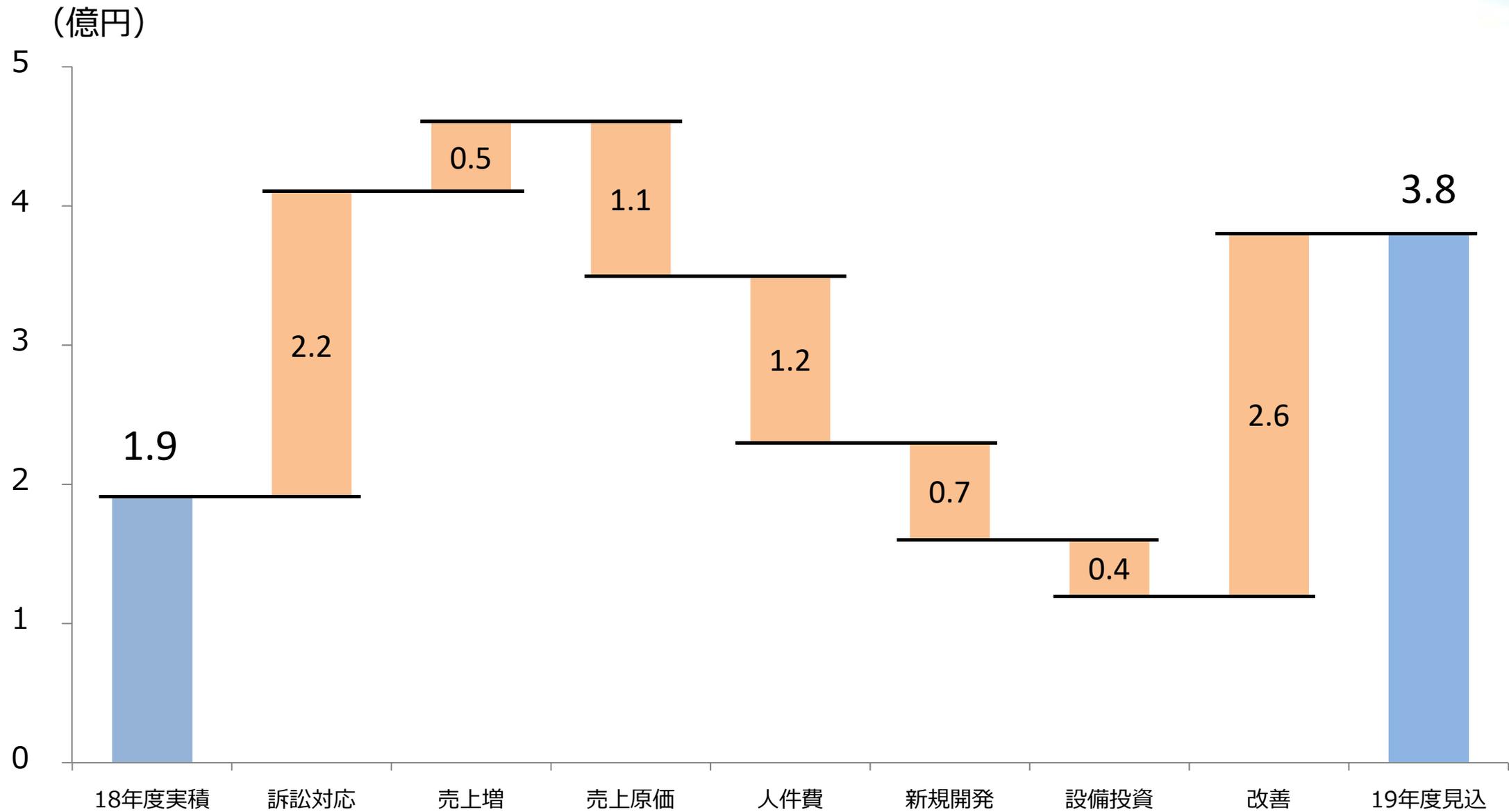
	2018年度	2019年度	前年比	
売上高	13,070	13,200	129	101%
ノイズ	8,326	8,210	△116	99%
サージ	2,156	2,190	33	102%
表示	1,994	2,210	215	111%
センサ	593	590	△3	99%
国内	6,732	6,760	27	100%
海外	6,338	6,440	101	102%
アジア (万USD)	4,819	4,880	60	101%
欧米 (万USD)	907	970	62	107%
海外 (万USD)	5,727	5,850	122	102%
営業利益 (利益率)	194 (1.5%)	380 (2.9%)	△185	196%
経常利益	171	420	248	245%
純利益	△670	300	970	-

(3) 売上高 (セグメント別)

- ・エアコン向け及び医療機器向けに特に注力し、売上を拡大する
- ・照明用LEDのさらなる成長を見込む



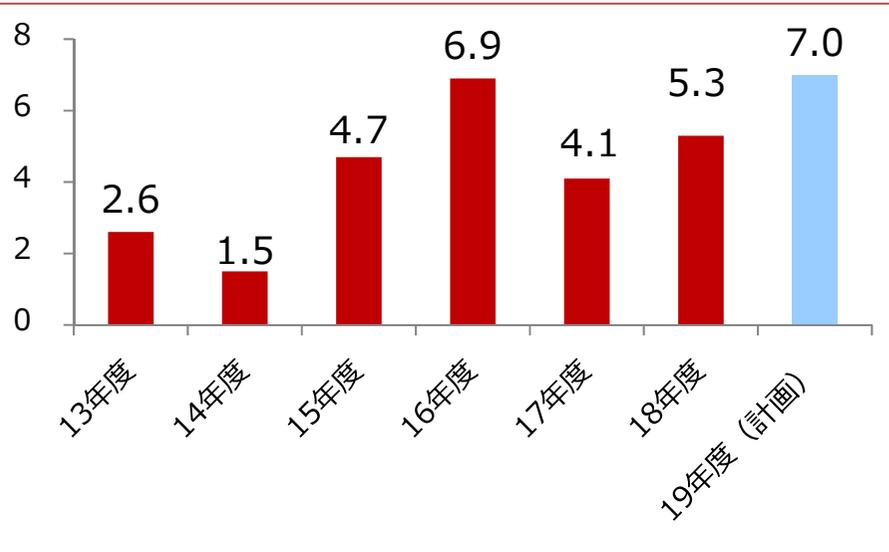
(4) 営業利益の増減要因



(5) 設備投資・研究開発費

設備投資：総額 7 億円

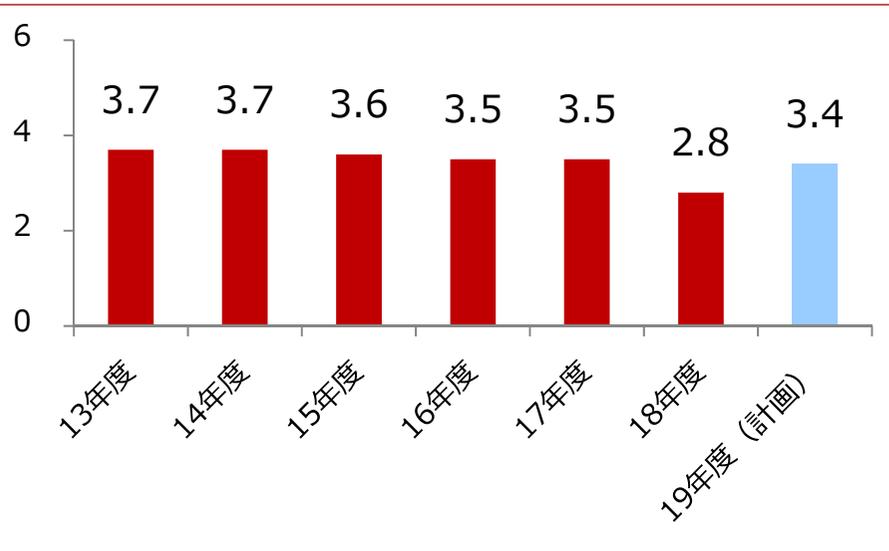
本年度連結範囲分（100%子会社のみ）



主な投資内容

- ・長野：各種開発、品質試験装置
- ・海外 2 工場：高品質・安定生産対応、省人化設備
- ・国内 3 工場：高品質・安定生産対応、新製品立上
- ・基幹システムの刷新

研究開発費：総額 3.4 億円



主な開発テーマ

- ・高信頼性（大容量・大電流・高周波）コンデンサの開発
- ・AC/DC電源用サージアブソーバの開発
- ・横浜国大との産学共同研究（AI活用等）
- ・新構造フォトインタラプタの開発
- ・工程自動化に向けた装置開発（コイル巻自動化）
- ・システム開発（IoT）

(6) 配当計画

本年度配当計画

- ・ 1株あたり年間4円
- ・ 配当性向30%

第3部 経営方針

1. 第10次中期経営計画の骨子

1. 2019年度方針

- * 2018年度にスタートした第10次中期経営計画の方針、大枠は2019年度も含め3年間不変
<10次方針> 100年成長企業を目指し、「10年後も勝ち続けるOKAYA」を構築する
「車載産業」へ参入する開発力と生産力の基礎固めの3年間
生産本部・技術本部：機能別組織への転換（品質重視の実現）
- * 2018年度の計画進捗度合と環境変化等を考慮にいて、ゴール達成のため「新たに付け加えること」「修正すること」を加え見直す
- * 2019年度への大きなテーマは：
 - ①品質重視の思想を全社にどう浸透するか
 - ②品質をどう改善、向上するか
 - ③上記①②を含めた諸課題を解決する組織力、人材力をどう強化するか

2. 経営目標…売上・利益等の計画

- * 2020年度到達目標（修正部分）
 - ・売上高 140億円
 - ・営業利益 7億円（利益率 5.0%）
 - ・ROE 5.7%
 - ・新商品比率 30%

3. 当初計画への追加・修正

全社：新基幹システムの構築を着実に進める

技術・生産：品質重視の思想を全社に浸透し、品質を改善、向上するために生産本部を「技術本部」と「生産本部」に改編

- * 開発技術力/要素技術力、生産・製造技術力、組織力の強化（技術）
- * 品質保証部の体制強化（技術）
- * 品質重視の思想を全社に浸透（技術・生産）
- * 「購買機能」の明確化、強化（技術・生産）
- * 国内・外 工場の統括体制再構築（生産）
- * 納期対応力の向上（生産）

全社共通：新基幹システムの構築を着実に進める

拡大範囲が国内から海外へ、営業から生産現場へ拡大するので、各本部・室の連携を一層強化して推進する

営業：戦略策定力、マーケティング力を強化する

- * 営業戦略の強化：LED
- * 企画営業部の強化

管理：人事部でやるべきことと必要な体制を明確にする

- * 人事・評価制度：「信賞必罰」の制度・運用
- * 人事部創設：時期：2020年4月設立を目指す（一年延期）

経営企画：OKAYAグループの力を底上げ

- * 技術本部、生産本部の企画力強化
- * 全社的に「購買」の力を強化する先駆けを担う
- * アライアンスの案件を遂行する組織力（人員）を強化する

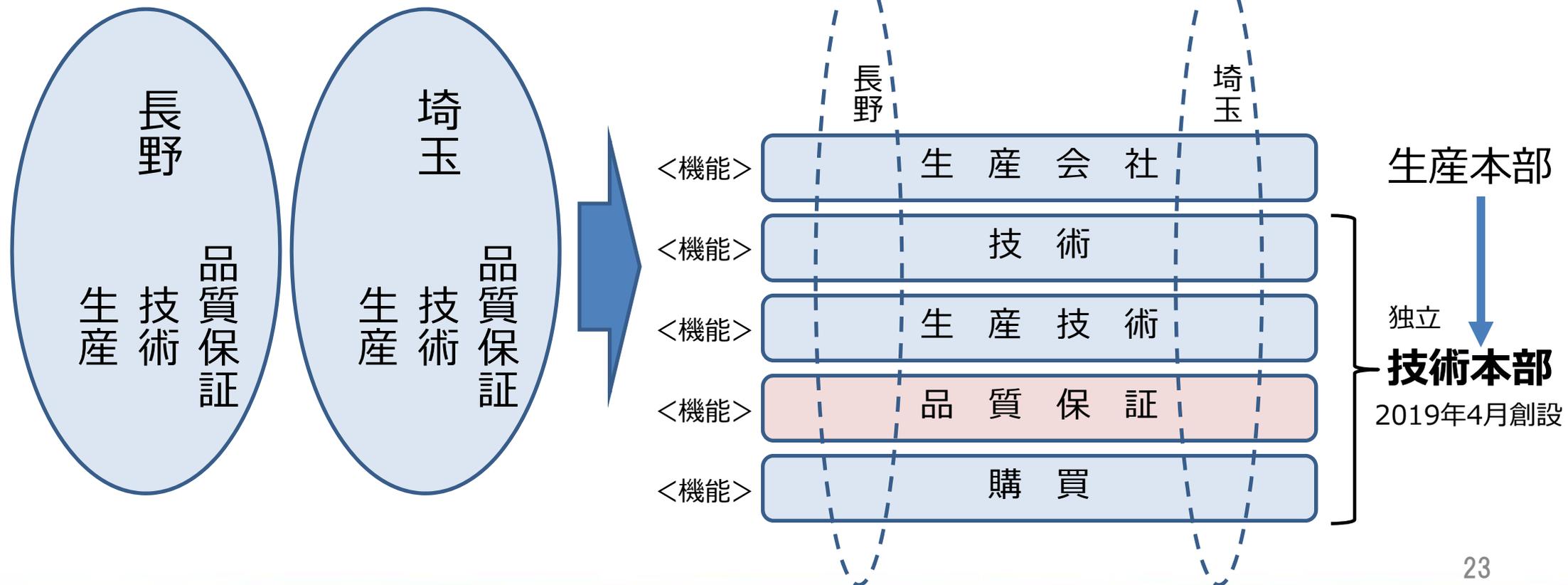
2. 車載産業への参入に向けて

(1) 生産体制のあり方 -地域別から機能別へ-

- ・地域別組織であった生産部門を機能別組織とすべく2018年度より改革に着手
- ・生産会社以外の4部門が技術本部として独立。特に品質保証部門の牽制機能・実効性強化につなげる

現状

目指す姿

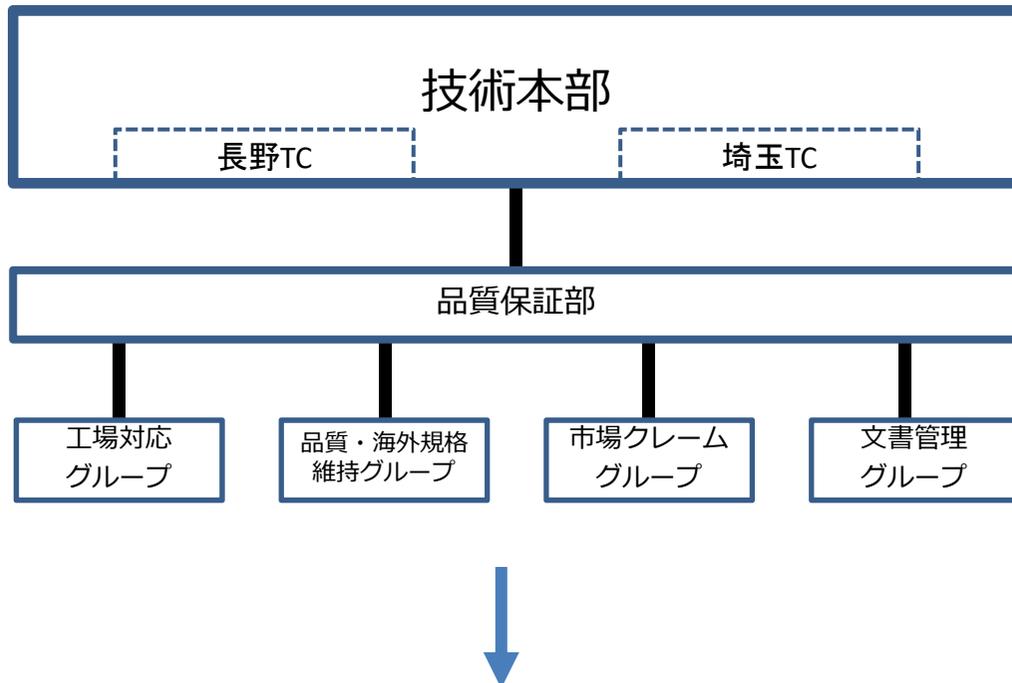


2. 車載産業への参入に向けて

(2) 品質保証体制の刷新

第10次中計2年目（2019年4月～）

- ・地域別組織であった品質保証部門を統一
- ・各業務が適切になされるよう、機能別に部内を再編。4グループを設置した



第10次中計3年目（2020年4月～）

- ・品質保証に加え、生産、技術、生産技術、購買の各部門も地域別から機能別へ

(3) 商品の開発

共振コンデンサの開発

- ・業務用IH調理器向け
- ・AGV（自動搬送機）向け

市場ニーズの情報収集

仕様検討、評価実施

2019年度中に商品化

- ・車載グレード品の開発へ

Components of the future

未来の部品

ご清聴ありがとうございました

連絡先窓口：経営企画室

メールアドレス：OEI_Kouhou@okayaelec.co.jp

電話番号：03-4544-7006

FAX番号：03-4544-7007

なお、本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。